

千種高校展望

第89号 (復刊第3号)

— 平成26年度活動の記録 —



兵庫県立千種高等学校

校訓：自立 信愛



林 柳正（正男）先生 書 （校長室）



山部 一翠（一之）先生 書 （会議室）



千種高校玄関：堀井隆水先生書

（故人：丹波石龕寺[真言宗]住職・元兵同教会長）

成名每在窮苦日 敗事多因得意時

（名を成すは、毎[つね]に窮苦の日に在り、敗れる事の多くは得意の時に因[よ]る）

盛年不重来 一日難再晨

及時当勉勵 歲月不待人

（盛年重ねて来たらず 一日再び晨[しん]なり難し
時に及んで当[まさ]に勉勵すべし 歲月は人を待たず）

編集後記

『千種高校展望』第89号（復刊第3号）をお届けします。平成24年に『展望』の復刊を志して3年、「連携型中高一貫教育校」改編以降の千種高校の姿を出来る限り忠実に映し出すべくその編集に努めてまいりましたが、一見盛り沢山に見える内容ではあっても日々の教育実践の中で展開されていることをじっくりと思い起こしてみると、言い足りない、書き足りないことも数多くあります。紙数が限られているが故の宿命ではあるのですが、それでも県下で最小規模の普通科高校の姿がお読みになる皆様方に少しでもお伝えできれば幸いです。

平成26年度は、数多くのお客様にお越しいただくことのできた年でした。分けても11月、兵庫県議会文教常任委員会の先生方にお越しいただいて、通常の管内調査のみならず県民（地域住民）との意見交換会まで実施していただけたことは大きな喜びでありましたし、1月中旬、雪の多く降る千種に、作家であり兵庫県教育委員でもある玉岡かおる先生にお越しいただいて授業をしていただいたことは、中々経験できないことでありました。また、遠方よりお越しいただいた「連携型中高一貫教育校」の仲間、長崎県立大崎高等学校の先生方からは、千種高校が生き残っていく上での多くのヒントをいただくことが出来ました。

平成26年度はまた、千種高校の生徒たちが学校の外へ出て、様々な場面で活躍する機会を与えられた年でもありました。4月、「出る杭大会」での出店と同時にステージ企画の総合司会。8月、「日本熊森協会」主催の原生林ツアーに現地ガイド役として参加したこと。10月、「ちくさふれあいフェスタ」で披露した路上での和太鼓演奏で、高校生の元気づくりパワーを証明できたこと。11月、「千種町保幼小中高合同ふれあい文化祭」で演じた情報モラル啓発劇は、町中の皆さんから高い評価を得ることが出来ました。12月、消費生活センター主催の交流発表会でネット利用改善運動の成果を発表。2月、「スマホサミット in ひょうご」で先進取組事例を発表し、その後の討論会では議論を終始リード。3月、「西播磨地域夢会議」に8名が参加して若者の代表として地域づくり夢づくりを他の世代の方々と語り合った…等々、枚挙にいとまがありません。千種高校生の頼もしさを実感することの多かった、この1年間でした。

千種高校は、常に「地域から学び、地域に貢献する学校づくり」を実践してきました。本校が日々の教育活動を展開する中で、「千種高校を支援する会」「ちくさっ子を育てる会」「まちづくり推進協議会」等の数多くの皆様方からどれだけご支援をいただいているか、それは計り知れないものがあります。これからも、地元の皆様とがっちりスクラムを組み、今年度運用を開始した「千高街の駅」なども上手く活用しながら、高校生が活躍する場面を更に作っていただければ幸いですし、その発展の手がかりとして、この『展望』が生かされればと思っています。

最後になりましたが、本校の教育活動を常に支えていただいている地元千種の数多くの皆様、宍粟市立千種中学校、宍粟市教育委員会、兵庫県教育委員会の皆様に厚くお礼を申し上げます。

教頭 原田尚昭

千種高校展望 第89号（復刊第3号）

—平成26年度活動の記録—

平成27年3月30日 印刷

平成27年3月31日 発行

編集 「千種高校展望」編集委員会

発行 兵庫県立千種高等学校 校長 長森順子

〒671-3201 兵庫県宍粟市千種町千草727-2

TEL (0790)76-2033(代) FAX (0790)76-2233
